熊本学園大学 外国語学部 第23・24合併号
英米学科 GAZETTE
令和３年11月
発行・編集
熊本学園大学　外国語学部

巻頭言

辞書は読みもの

神本　忠光（教授／応用言語学・英語教育学）

「辞書は読みものである」と言うと、学生は怪訝な顔をする。無論、小説などとは異なる読みだが、言語の豊かさや語彙の機微を照射し楽しませてくれる。電子辞書の発達・普及で、その特質は激増した。

特に一括検索機能に負う。例えば、検索窓に「ぱそこん」と入力する。すると画面にその見出し語を含む辞書が一覧表示される。外来語辞典を見ると、この表現は personal computer（PC）の圧縮表現だと表示する。和英辞典で「パソコンおたく」を見て、nerdから芋づる式にgeekへジャンプもできる。新村出やJames Murrayが生きていたら驚愕するに違いない。

学習者の辞書を「引く」習慣を「読む」へ誘うには、既知語が良い。語義を再認し、シソーラス・成句・用例に触れながら、「わかる」を「使える」へ移相もできる。これがすべて文庫本程度の筐体でできる。ビバ、電子辞書！

新しい研究スタイル

堀　正広（教授／英語学・文体論・コーパス言語学）

コロナ禍の中、Zoomによる講演会や研究会が増えた。これまでは講演依頼は2～3年に一度程度だったが、今年度はすでに他大学から依頼された2件の講演を実施した。移動や宿泊の必要がないので主催者の経費削減になる。また、学会のシンポジウムの打合せや科研費の研究会もZoomで行っている。たとえば、今年５月に開催される日本英文学会での「英語読解力再考：『英語が読める』とはどういうことか？」というシンポジウムは、司会者以外ははじめて一緒に仕事をする先生方だが、Zoomでお互いの発表内容を確認した。また、執筆中の研究書に関する打合せもZoomを利用している。コロナ禍の不便な状況は悲観的なことばかりではない。ZoomのようなWeb会議ツールは、新たなコミュニケーションのやり方を提供し、学問や研究の在り方に変化を与え、活性化させている。時代に負けない人間力の素晴らしさを感じる。

オンライン英米海外研修

塩入　すみ（英米学科長）

英米海外研修は例年アメリカのベセル大学で行っていますが、コロナ禍のため、今年度は海外の４つの大学（カナダ、ハワイ、ニューヨーク、ミシシッピ）のオンライン・プログラムから学生が選択して実施しました。春学期本学で 15 回の事前指導を受け、夏休みの約 30-40 時間、海外の大学の ESL オンライン・プログラムを受講しました。授業のほとんどはライブ配信で、面と向かっての会話とはまた異なる英語力が鍛えられることになります。それとともに、世界のクラスメートと現地学生との交流もあり、充実した内容でした。受講料は受け入れ大学やプログラムによって異なりますが、3.5 万円から８万円程度と、実際に行くよりかなり格安です。アフターコロナにもこうしたオンライン講座は第二の留学として学生にとって重要な選択肢となりそうです。

カナダ・ビクトリア大学のプログラムの様子

日本語教員養成課程

コロナ禍の日本語教育実習

塩入　すみ（教授／日本語教育）

2010 年４月に熊本学園大学に日本語教員養成課程が開設されてから、今年度で 12 回目の日本語教育実習が終了し、今年も 16 名が実習を行っています。新型コロナウイルス感染の影響で昨年に続き今年も海外（ニュージーランド、韓国、台湾）での実習は中止となりましたが、本学留学生クラスでの実習の他、台湾の大学とのオンラインによる実習、熊本市内の専門学校湖東カレッジ、熊本外語専門学校での実習が実現し、貴重な経験を積むことができました。短い実習期間でも普段とは全く別人のようになる学生もいて、「異文化接触効果」とでも言うべき経験が大学生を如何に成長させるかを痛感します。

新型コロナは社会の様々なことを変えてしまいましたが、こうした状況下での実習を経験したことで、外国語で直接授業をすることの意義の大きさについて考えさせられることが多くありました。一日も早く異文化とぶつかり合える日々が戻ることを願っています。

専門学校湖東カレッジでの森屋夏美さん（3年生）の実習風景

ゼミ紹介①

ゼミにおける能動的学習の実践

矢冨　弘（講師／英語史・社会言語学）

私の担当するゼミでは英語学、特に英語史と社会言語学に関する研究を行っている。現在は３年生が 12 名、４年生が９名在籍しており、学生は各自で決定したテーマについて研究を進めている。いくつかテーマを紹介すると「英語における kawaii の借用とその歴史に関する考察」、「動物由来の形容詞（piggy, doggy, foxy）の語源と用法」、「イギリス英語における Do you have～? と Have you got～? の使用と歴史」、「英語歌詞に現れる She don’t～ について」などがある。

私の座右の銘の一つは Francis Bacon(1561-1626) の以下の一節である。Reading maketh a full man, conference a ready man; and writing an exact man. 「読書は心豊かな人を作り、会話は機転のきく人を作り、書くことは正確な人を作る」。私がゼミの指導で重要視しているのは、この言葉にあるように、能動的思考と知識のアウトプットである。授業での議論やプレゼンテーション、論文執筆を通してこれらの能力を培うことを目指している。

研究は簡単に言うと３つのプロセスからなる。①テーマ（問題）を設定し、問題解決への筋道を立てる。②調査をして説得力のあるデータを集める。③発見や議論を他人に伝える。テーマを決定する際には、普段は気にも留めないことを疑い、「なぜ？」という疑問を持つことが必要である。解決までの道筋を立てるためには、自分の考えをまとめ、他人の視点を総合して考える必要があるため、マインドマッピングやブレインストーミングといったグループワークを用いる。議論のベースとなるデータの収集は、電子コーパスや Oxford English Dictionary といった専門的な辞書や文法書を使用することが多い。最終的に自分の議論をプレゼンテーションや卒業論文といった形で他人に伝えるが、これがなかなか思った通りにいかない。自分の発表を客観的に観察する訓練が必要で、学生にとっては大きな壁であるが、ここで試行錯誤を繰り返すことが大きな成長につながる。

３年生の最初はたどたどしかった発表も、最終的には別人かと思うほどこなれたものになっていく。このような成長を目の当たりにしたとき、教育に携われて良かったと思う。現代にはあらゆる事柄に対して、様々な情報や意見が氾濫している。多様性を認めることは大事であるが、同時に能動的な思考能力をベースとして、自分の意見をしっかりと持つことが、この状況に振り回されないために必須だと考えている。

発表をするゼミ生の野北昴希さん（4年生）

ゼミ紹介②

ゼミの先輩から後輩へ就活アドバイス

向井　久美子(教授／アメリカ文学)

例年本ゼミでは、アメリカ文学や文化（特に芸術や映画）に関連した原作とその映像化作品を比較分析したり、詳しく解釈して議論しながら、小論文を完成させていくことを目標としています。今年は小説も映画も、時代の流れに沿って、LGBTQ や、民族や個人など様々な意味でダイバーシティを主にテーマとしている作品などを扱っています。どの作品に関しても、それぞれ意見を出し合い、議論も活発に行われ、小論文にもプレゼンにも、皆真剣に取り組んでいます。

授業内容以外でゼミの様子をお話すると、学生たちは、ようやくコロナとの共存に慣れつつあり、その中で積極的に留学や就活について考え、活動を再開し始めてきています。特に今年のゼミ生は意識が高く、方向性が一致しているので、授業の合間に、そういう気持ちに応えられる機会を設けました。これまでも、こういう機会は何度も設けてきましたが、特にコロナ禍ということもあるのでしょうか、本当に学生たちは熱心に多方面に意欲的になってきています。

まず、スターバックスコーヒージャパン(株)に内定を受けた石川沙紀さんは、もともとはエアライン系が希望で CA になる夢をもって英米学科に来てくれたのですが、コロナによって大手の航空会社の採用がゼロとなり、完全に気持ちを切り替え、外資系の英語を使用する企業を考えるようになったそうです。入学当初から英会話や TOEIC の勉強も熱心に行い、現在も 900 点をめざして勉強中です。そのような中で、真剣に就活に取り組みながら、今回の内定に至ったそうです。こういった決意や経緯を含めて、ゼミの後輩にいろいろと話してくれました。就活の体験や注意点や反省点など、リアルで具体的な先輩のアドバイスに、3 年生からも熱心な質問が寄せられ、非常に活発な質疑応答が行われました。特に自己分析の方法やそこに含めるべき具体的な例やエピソードトークの作り方、企業のオンライン情報を分析する際に注意するべき点、企業研究する際の軸となるもの、就活で心配な点、内定が取れずに落ち込んだ時のストレス解消法など、かなり踏み込んだ質問にも、自分の言葉で一つ一つ丁寧に答えてくれていました。

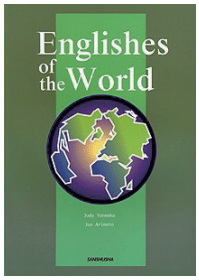
もう一人、同じ４年の卒論ゼミで日本銀行熊本支店に内定を受けた重永歩美さんは、主として公務員をめざして、普段の授業もコツコツとまじめに着実に勉強していました。現在、本学の就職課には、全学的に学生の就職支援の一つとして行っている GSA 学生就職アドバイザーという制度があり、これは、内定をした学生が３年生にさまざまなアドバイスをする活動を「塾」形式で主催していますが、そのメンバーの一人としても、活動をしています。本人は、熊本に根差した安定した、一生続けられる仕事という軸で、公務員や銀行などを主として考え、自己分析を重視しながら、面接の勉強も続けていたそうです。もともと経済にも興味があり、携帯にアプリを入れて経済新聞を読んで知識を増やしたり、中学の頃に始めたジュニアヘルパーというボランティアを今でも続けながら、各企業のインターンシップや説明会などに積極的に参加していました。就職試験の面接では、究極的に人間性を問われる内容であったことや、ゼミの内容も詳しく聞かれて驚いたエピソードも話してくれました。ゼミ論で扱った映画作品を人事担当の面接委員も試験当日までに見てくれていて、面接ではその映画の話で盛り上がったそうです。その話を聞いて、ゼミ生たちも担当教員の私も、授業で扱う映画を改めできちんと学ばなければ、と身の引き締まる思いをしました。

以上のように英米学科の３年生のゼミでは、このように対面で先輩の話を聞くチャンスもあり、それぞれの英語の専門分野の勉強と並行して、就活のモチベーションも高める経験もしながら、楽しく有意義に学んでいます。

ゼミ紹介③

My Seminar in World Englishes
(世界諸英語)

米岡　ジュリ(教授／World Englishes)



Four-fifths of the world's English speakers are not native speakers of English. In such a world, is it possible to communicate truly with knowledge of the American language and culture alone?

My seminar in World Englishes studies the varieties of English used around the world, not only in native speaking countries such as Canada, England, Great Britain and New Zealand, but also in countries where it is used as a second language, such as Singapore, India and the Philippines, and as an international language as in China, France, Tanzania and most other places in the world. We discuss both their linguistic characteristics (accent, vocabulary and grammar) and their histories, cultures, and stereotypes, as they are inseparable. English education practices and usage are also reviewed.

As a basis, we begin with Japanese English as a variety. How is typical Japanese English pronunciation different from standard US or British English? Where does Japanese gairaigo come from and how has it changed in meaning? How is English used in Japanese cultural products such as J-pop, manga or Degawa English, or on Japanese signage? How is English taught in Japan? All of these questions provide a rich source of interesting topics for research papers and discussion in English.

In non-Covid times, exchange students from various countries (the US, Canada, Australia, China, South Korea, Germany, etc.) also participate in the seminar. We also usually take a seminar trip to Korea to observe how English is used in Korean signage, learn about Japan-Korea relations through English, and eat some delicious Korean food!

卒業生による外国語学部就職セミナー

就職課では、活躍中の外国語学部卒業生を招き、就職セミナーを開催しています。仕事内容や就職活動について先輩の体験談を聞くことで、将来の目標やビジョンを描く貴重な機会となっています。今年はコロナ禍のため、12 月 22 日（水）14:40 より Web での開催となります。今回はゲストとして、2017 年度英米学科卒業の藤木マンナさんをお招きします。藤木さんは現在、熊本製粉株式会社・海外事業部に勤務し、その高い英語力を活かし、海外とのビジネスの最前線で活躍しています。後輩たちにもきっと大きな刺激を与えてくれることと思います。

藤木マンナさん
（2017年卒業）

きみと未来をつなげる
クマガク

編集人　塩入　すみ(英米学科長)
〒862-8680　熊本市中央区大江 2-5-1
TEL: 096-364-5161(代表)　Mail: shioiri@kumagaku.ac.jp